
トリとおんなのコ

蒼みかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トリとおんなのコ

【Nコード】

N86450

【作者名】

蒼みかん

【あらすじ】

トリとおんなのコのありがちな小話。
病弱なおんなのコの元にトリが来て…
な嘸です。
暇潰しにどうぞ

(前書き)

中学時代に書いたので多目に見てやって下さい。

あるところにびょうじやくなおんなのこがいました。

おんなのこはからだがよわく、そとにできることさえできません。

おんなのこはなまえを

といいました。

そんなおんなのこをとおくからみているトリがいます。

トリはそのおんなのこをともしんぱいしていました。

おんなのこはいつもどおりに まどのそとをながめていました。

そんなおんなのこのまえにトリがとんできました。

トリはおんなのこにかたりかけます。

「まいにちここからそとをながめてるね。あなたのなまえは なあに？」

おんなのこはこたえます。とてもこまったようなほほえみをつかべながら。

「ここからみえるけしきはすてきね。わたしに いつもちがうようすをみせてくれるの。」

トリはいぶかしむみました。どうしてなまえをおしえてくれないのだろう。

けれど、そんなことよりもおんなのこのひょうじょうがかげつたのにこまりました。トリはなにもこまらせたくていったわけではありません。

そんなトリのしんじょうをわかってか、おんなのこはトリに はな

しかけます。

「ねえトリさん、ひまなときだけでいいから わたしにそとはなしをしてくれない？」

そういったおんなの口はそとのせかいかんがえてか、とてもあかるく、たのしそうなかおをしていました。

トリはうれしくてたまらない。

このかおを みたかったのだ。この、はながさいているようなえがおをみたかったのだ。

いつもこの口がわらっていられるようなことはできるのだろうか。

トリはいつもおんなの口をみていました。そしておもったのです。

この口がわらっていられるように、わたしにできることをしよう。このちっぽけなからだで できることがあるなら、と。

このちいさなからだで できることは すぐかぎられてはいるだろうけど。そとはなしをするだけでいいのなら...

「うん、がんばる。まいにち はなすよ！」

「ほんとう！？とってもうれしい！...」

おんなの口はとってもうれしそう。かおじゅうっぱいにえがおをうかべて。

そのひからトリは まいにち、やくそくどおりはなしをするためにおんなの口のいるへやへいきます。トリはおんなの口にいろいろな はなしをしました。

それからみたけしきがどれほどそうかなことが、いちばがひらかれているときのひとびとのにぎわいとか、はなが はなつかおりがどれほどすばらしいことか、たまにおそってくるどつどつのおそろしいことか。

トリはしりつるかぎりのそとをおんなのコにはなします。
おんなのコはそんなトリの　はなしをいつも、とてもたのしそうに
きいています。

あるひ、いつもどおりにトリがおんなのコのいるへやにいくと　お
んなのコはいませんでした。それどころか、おんなのコがねむって
いたベッドさえありません。

トリはふあんでおしつぶされそうです。

どうしたの？どこにいったの？いついなくなったの？

トリは　ひっしでおんなのコをさがしています。すると、ぐうぜん
かんごぶさんが　はなしているこえがきこえてきました。

“おんなのコが　たいいんした”

トリはあんしんしました。

よかった、しんじやったんじゃないんだ。ようやくびょうきに　か
ったんだね。よかった、よかったね、なまえをおしえてくれなかつ
たおんなのコ…

ようやくおんなのコのねがいがかなったんだね…

トリのめからはとめどなくなみだがあふれてきました。

トリはおもいました。

どうしてわたしはないてるんだろう。おんなのコがたいいんしてう
れしいはずなのに。うれしいから　なみだはでなくていいのに。

トリはおんなのコといたへやに　もどっていました。

トリはおんなのコとよくはなしていたまどべにとまりました。

そこをかんごぶがとおりかかり、トリにさみしそうにわらいながら

はなしかけました。

「いつもお見舞いに来てくれてありがとう、トリさん。また会えるといいね、はなのようにわらうおんなのコと」

そういつてひとなでしてからたちさつていきました。

トリは ようやくじぶんのきもちにきづきました。

そう、トリはかなしかったのです。トリはさみしかったのです。

トリはなきました。

もうあのおんなのコにそとはなしをすることもないでしょう。

それからトリはいつものものにちじょうにもどりました。

もうおんなのコがいた たてものをおとずれることもないでしょう。

数年後

トリはひさしぶりにおんなのコのことをおもいだしました。

おんなのコがいたたてものをおとずれようとおもいました。

パタパタとはねをはばたかせ、まいにちのようにいつていたへやにいつてみました。

だれもいません。

トリはおんなのコに はなしていたときとおなじようにまどべにとまってみました。

まどからひがさしこみ、へやをあたたかなひかりでつつみます。

さんさんとひかりがふりそそいでとてもきもちいい。

パタパタとあしおとがきこえてきました。トリはまどろんでいたいしきがうかんでくるのをかんじます。

おもくなつたまぶたをあけると、

めのまえにおんなの口がたっていました。

おんなの口が良かったです。

「ねえトリさん、そとはなしをしてくれない？」

おんなの口は、まんかいのはなのようなえがおをそのかおにうかべていました。

「……………わたし、でいい、の？」

トリはかすれるこえていました。

おんなの口はえがおのまま、うなづきました。

「あなたがいいの。ね、トリさん。わたしにおはなしをきかせてください」

「うん、うん……………うんっ。たくさんきかせたいことがあるよ、いいこともたくさんあるよ！ききたいこともたくさんあるし、こたえてほしいこともあるの！！あのね、」

トリはひといきおいてからおんなの口にいました。

「あなたの、おなまえは なあに？」

おんなの口はすこしびっくりしたあと、「うん、そうだったね」とむかしをなつかしむようにいいました。

そのめはとてもまぶしいものを見るように ほそめられていました。

いいえ、じつさいにまぶしく感じたのかもしれません。
おんなの口のひとみには ちいさくてとてもきれいなトリがうつっ
ていたのです。

トリとおんなの口は おたがいをなまえでよんでいます。
それはあたりまえだけど、けっしてあたりまえではないこと。
トリとおんなの口はとてもたのしそうに はなしをしています。
それはとてもこころあたたまるふうけいでした。

トリとおんなの口はいつしよにくらしています。
あいてをなまえでよんで、なかよくわらいあいながらはなしをして
います。
とてもたのしそうに くらしています

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8645o/>

トリとおんなのコ

2010年11月12日14時02分発行